

# 令和元年度 第 1 回 安倍川水系流域委員会 議事要旨

## ■開催日時・場所

日 時：令和元年 12 月 2 日（月） 15:00～16:10

場 所：男女共同参画センターあざれあ 5 階

## ■出席者

戸田委員長、土屋副委員長、板井委員、大石委員、湯浅委員、竹内委員、三浦委員、絹村委員、大久保委員

## ■議事内容

### （１）台風第 19 号による影響

- ・ 台風 19 号による出水で河床の上昇があったのではないかとのことだが、今回の出水を受けて、河床の測量予定はあるか。

⇒来年の出水期までに把握できるよう、航空レーザー測量等の測量業務を実施予定である。

- ・ P.2 の 13.75k 付近左岸についての侵食箇所の説明で、侵食の危険性の高い箇所に巨石付き盛土砂州などを設置することだが、13.75k 付近が事前に河岸侵食の危険性が高いとされた理由は何か。今回の被災結果や事前検討でこの箇所にどのような特徴があった場所なのかを検証してもらえれば、今後の河岸防御の考え方の重要な情報となるのではないか。

⇒巨石付き盛土砂州等の計画検討の中で、13.75k 付近については洪水時には大きく侵食される事が想定されるため、水制による対応が必要としていたが、未施工の状況で被災をしたという状況である。危険箇所の選定方法については資料 4 にて説明させていただく

- ・ 土砂堆積の問題で、あらかじめ土砂の流入量や堆積量を予測し、それらを踏まえた河床掘削等の対応していくべきではないか。

⇒現在、平成 25 年に策定した総合土砂管理計画に基づいて年間 20 万 m<sup>3</sup> の掘削による河道確保の計画を進めている。これは想定される土砂流出量も踏まえた計画ではあるが、ただし、掘削量については平成 25 年度時点までの情報を基に決めたものであるため、昨年度や今回の台風 19 号による出水の影響を含めて掘削量を再検討していく予定である。

- ・ 今回の出水で、藁科川への影響はあったのか。また、出水のピークは、安倍川本川と藁科川ではどちらが早かったのか。

⇒藁科川の奈良間観測所では、水防団待機水位を超過程度であり、本川に比べてあまり水位は上がらなかった。ピークの時間差については今後整理を行う予定である。

- ・ 今回の出水で、大河内・梅ヶ島など、県や市の管轄の道路等、被災箇所がたくさんあった。増水時に道路や護岸の根が侵食され、土砂再堆積により塞がり見えなくなり発見出来ていない災害があるのでは。これは今後道路の陥没などに繋がる恐れがあるので、十分注意する必要がある。

- ・ 今回のような出水が来れば大量の土砂が堆積する。年間平均掘削量が 20 万  $\text{m}^3$  で足りるのかどうか。過去に砂利採取の様子を見てきたが、毎年河床が上がっている。今後、河道掘削で対応していくのか、また、堤防の嵩上げを行い、スーパー堤防として整備するのか、それらの検討も必要ではないか。

⇒安倍川は土砂の堆積が懸念されており、過去の大きな出水が起こった期間では年間 100 万  $\text{m}^3$  ほどの土砂堆積であった。今回の台風 19 号と類似の出水では数十万  $\text{m}^3$  ほどの堆積が確認された。今の目算として、台風 19 号の出水による堆積量は数十万  $\text{m}^3$  ほどで考えている。現在、年間 20 万もしくは 30 万  $\text{m}^3$  ほどの掘削としているが、今回の台風 19 号による出水の影響を含めて掘削量を再検討していく予定である。

## **(2) 安倍川水系河川整備計画の点検について**

### **①前回のご指摘と対応**

- ・ P.6 の指摘内容①に関して、多く記載があるが、どのように洪水被害が起きないようにするかという考え方が中心となっている。元々、人間は水との戦いがあったと、歴史や古文書などにも載っているが、川や水のありがたさや感謝の気持ちがあったということも思想として持っていただきたい。また、魅力的な川作りについても意識してもらいたい。
- ・ P.9 の指摘内容④で、全国的な動きは注視していくとあるが、安倍川はダムがなく貯留の余裕がない河川である。狩野川のように放水施設もないため、降った雨がそのまま流れ出る川である。見直しを行った際に、改修の厳しい箇所が出てくる可能性があるが、そういった箇所に対して、流域で水を逃がす方法など他に考えていかなければいけないのではないかと。森林や農地の保水など、流域内で考えられる事を関係機関と調整していただきたい。

### **②事業の進捗状況**

- ・ P.17 に今後 3 年間の緊急対策として年間平均約 25 万  $\text{m}^3$  掘削するとの記載があるが、グラフの H30 の位置から 3 か年の緊急対策をしても、目標までの想定ラインに届かな

いのではないか。想定ラインに届かせることを優先し、掘削量を増やすのか、25 万 m<sup>3</sup> の掘削で進めるのか。

⇒「防災・減災、国土強靱化のための 3 か年緊急対策」として、年間の掘削量を増加させることを実施しているが、今後の測量によっては年間平均約 25 万 m<sup>3</sup> の掘削で足りないとなれば、安倍川総合土砂管理計画に関する委員会で相談しながら、掘削量を増やすことを検討していく。

### ③事業の見通し

- ・ 河川工事の際に出てくる環境計画書は、工事落札後に受注者が作成しているそうだが、環境保全は場合によってはお金が多くかかるため、計画の段階から予算に入れておかないと、実施困難な工事が出てくるのではないかと。それらの計画を受注業者に任せることで、環境対策がおろそかになるのではないかと。工事そのものが環境整備になるのだから、あらかじめ保全も計画に入れ、環境対策をしっかりとってもらいたい。
- ・ 環境計画書について補足すると、安倍川の環境計画書は詳細に記載がされていると聞いている。また、環境への影響が小さくなるように、アドバイスがされている。環境計画書は何度も書き換えられている。
- ・ P. 24 にある水制工が水制になるのか疑問である。護岸堤防に対して 90 度の水制工の作りは、素材によっては護岸寄りの部分が磨耗して洗掘されることがある。また、水制は水を制御する構造物であるため、水を中央に戻す意味合いが強い。そういったことを考えて設置してもらいたい。
- ・ P. 7 と P. 23 の巨石付き盛土砂州は、場所の選定の考え方について再度教えていただきたい。設置後に計画通り上手いいかないこともあると思うが、どのようなモニタリングをしているのか、また巨石付き盛土砂州によってどのような良い効果が出ているのか、モニタリングに含めて明らかにしていただきたい。

### ④事業の見通し

- ・ 安倍川総合土砂に関する委員会でも、巨石付き盛土砂州については密にモニタリングしているため、その結果を流域委員会で情報共有できるよう進めていただきたい。また、治水、歴史、環境についてもしっかりと書き込んでいただきたい。  
「防災・減災、国土強靱化のための 3 か年緊急対策」によって、河川整備計画やこれまでの計画が加速するのか。3 か年の緊急対策も含め、事業が計画通りに進んでいるのか、その進捗状況をわかるようにしておいていただきたい。

## (3) 今後の進め方

- ・ 今回の点検結果を踏まえ、資料の修正、及び状況の確認等はあるが、現行の河川整備計画の整備目標を変更する必要はないことに了承された。

以 上